



シーズ名

水災害ポテンシャル情報の創出

氏名・所属・役職

中條 壮大・工学研究科・講師

<概要>

災害に備えるためには人生や社会と災害の時間スケールの違いに気付く必要があります。これまでの防災は既往最大に備えるという思想に立脚していましたが、それでも時の流れの中で災害のリスクは忘れ去られていきます。これまでは大丈夫であったから、今後も大丈夫という経験からくる誤ったリスク評価は、十分な人生経験を積んだ人であっても犯してしまう間違いです。

地震や火山災害の再現年数が非常に長いのは周知の通りですが、毎年訪れる水災害についても本当に深刻な災害はたまにしか生じません。しかし、その1回を見逃してしまえば立ち直れないほどの痛手を負うことにもなります。深刻な災害になる可能性はどれくらいあったのか、それを毎回経験する小災害の特性から予測し、予測の不確実性の幅も合わせて提示しながら、今後訪れるであろう高災害ポテンシャルの時代に合理的に適応する情報の創出を目指しています。

<アピールポイント>

開発している確率台風モデルは、既往の観測された台風の情報から、統計的に生じる何万年相当の膨大な仮想台風の資料を作成し、元の観測データでは不足する台風資料のサンプル数を補うことで極端災害の発生リスクを評価する技術です。モデルは全球を対象としています。

過去に生じた台風資料から想定される、これまでも起こり得たかもしれない高潮リスクについて、統計的に合理性のある台風シナリオを作成し、検討しています。その他、お問い合わせください。

<利用・用途・応用分野>

- 防災コミュニケーション
- 防災情報提供
- 防災都市開発・都市計画
- 業務継続計画(BCP)
- 保険, 投資
- 海象予測

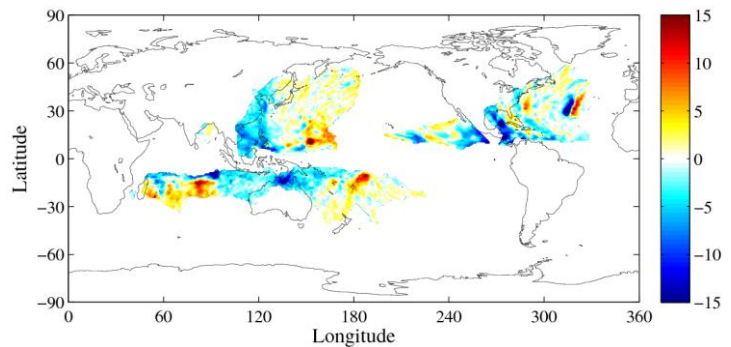
<関連する知的財産権>

なし

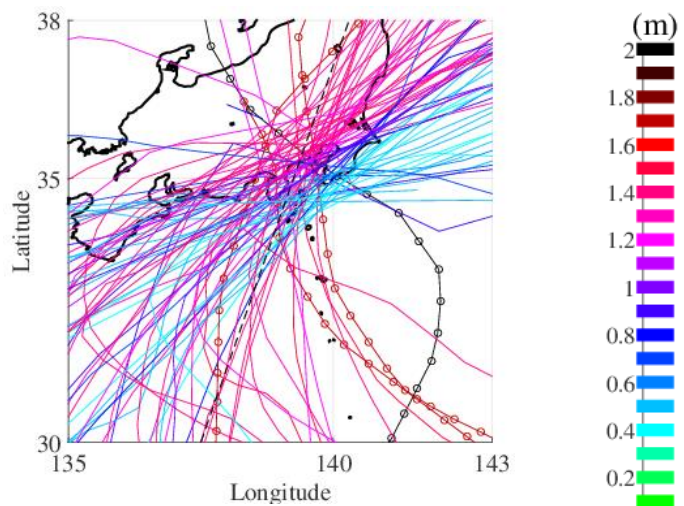
<関連するURL>

なし

<他分野に求めるニーズ>



確率台風モデルと全球気候予測結果を用いて推定した将来台風の100年確率風速の変化量 (m/s) [2100年ー現在]



東京湾における危険高潮をもたらす台風経路の選定
* 台風トラックの色は想定される高潮偏差 (m) を示す

キーワード

台風, 高潮, 確率台風モデル, 極端災害, リスク評価